

SW の魅力を再発見！ みんなで築こう ONE TEAM

釜石シーウェイブスにかかわりの深い人々のお話を聞き、魅力を再発見してもらうインタビュー企画、『SW の魅力を再発見！ みんなで築こう ONETEAM』。第二回は釜石まちづくり株式会社 Férias の事業部主任の市川香織さんです！

市川香織さん（釜石まちづくり株式会社 Férias 事業部主任）

□基本情報

出身 岩手県釜石市 現在、かまいし情報ポータルサイト～縁とらんす 釜石シーウェイブス RFC の選手紹介インタビューを担当。 <https://en-trance.jp/rugby/seawaves>



Q、ラグビーにかかわる仕事を始めたきっかけは？

東日本大震災後、釜石に出来た臨時災害 FM で働き始めた事がきっかけです。

入局した 2013 年当時、市民の皆さんにお届けする支援情報も徐々に少なくなってきていて、それでも引き続き、ラジオを聴いて頂く為に何か新しいコンテンツを発信して行こうと、一つの転換期を迎えていました。どんなコーナーが良いかなあと考えていて、釜石と言えば、「鉄と魚とラグビーのまち」。その中から、コーナーに出来そうなのは“ラグビー”かな・・・という感じだったんです。

私個人としても、高校を卒業して東京に就職した時、「釜石の出身です」というと「鉄とラグビー」の話題を振って下さる方がとても多くて。社会人になりたての頃、その話題で随分と助けてもらったという思い出もあり、その時の恩返しとして、ラグビーを盛り上げたい！という気持ちもありました。

ラジオ局のスタジオがあった同じ建物に釜石シーウェイブス RFC (SW) の事務局が入っていらっちゃって、「SW の情報をお届けするコーナーを始めたい」とご相談に伺ったら、快諾して下さいましてご協力を得られる事になったんです。そこから、チームを取材し始めて、試

合に行き、選手の皆さんにインタビューをするうちに、すっかりシーウェイブスのファンになっていました。

そして、臨時災害 FM が閉局した後、今の会社に拾って頂きまして、引き続き SW の情報をお届けするお手伝いをさせて頂いています。

Q、シーウェイブスのラジオを聞いて、どんな思いになってほしかったか

先ほど、「釜石はラグビーのまち」と言いましたが、実際の所、その当時、釜石市民の多くがその事を実感しているか？とういとう、そうでは無かったと思います。

私も、SW のコーナーを担当するまでは、市内で試合があっても観戦にはほとんど行った事は無かったですし。

でも、それは、情報が届いていないからだけなのかもしれない、だから、少しでも、ラグビーの魅力を発信していきたいという思いがありました。

ラジオを聴いて、ラグビーに興味を持ってもらう事や、実際に試合観戦に行く事に繋がってくれたなら、また、すでに SW のファンの皆さんには、よりチームや選手を身近に感じてもらえたら、そんな事を考えながら放送していました。

Q、若い世代のラグビー熱についてどうおもいますか？

ラグビーワールドカップ日本大会終了後、SW の公式戦が地元の鶴住居復興スタジアムで開催されると、若い世代の女性、ファミリー層が増えたと実感しました。この状況を一過性のもので終わらせるのではなくて、いかに続けていくかが大切だと思います。

でも、実際に試合会場で観戦した皆さんには、もうきっと、“ラグビー&SW の魅力”は伝わっているんじゃないかなと思います。

そんな若い世代の皆さんの情報発信力に期待しています！ラグビーの楽しさや SW について、ぜひ、どんどん周りに広げて行ってくれたら嬉しいです。

Q、ワールドカップ開催にあたってどう感じましたか？

私はワールドカップの開催地が決まるころは、取材する側にいました。開催するにあたって賛成意見も反対意見もあって、私はどちらの意見も分かるなあと思っていました。でも、開催が決まって、開催に向けて尽力していた人たちが男泣きしているのを見て、ああ、決まったからには全面的に応援しようと思いました。

昨年秋、ワールドカップが開催され、今私が働いている施設の隣が、釜石の公式ファンゾーンになり、連日多くの方々と賑わいました。その光景は、想像以上のもので、大会期間中、ラグビーファンとして、本当に冥利に尽きるというか、嬉しくてたまらない日々を過ごしま

した。誘致活動に関わった皆さん、今回の大会運営に関わった全ての皆さんに感謝の気持ちでいっぱいでした。

釜石はたくさんの子供たちの記憶にこの大会が刻まれた事が今後に繋がる“レガシー”になった事は間違いないと思います。高校から小学生まで各年代の子供たちが、自分達に出来ることをそれぞれ考えて、色々な“おもてなし”をしてくれましたね。最たるものが、スタジアムで合唱した「ありがとうの手紙」だったと思います。私もその場にいたのですが、想いが伝わってきて涙が溢れてきました。本当に素晴らしかったです。

そして、もう一つのレガシーは、世界中の方から「釜石は正真正銘のラグビーのまちだ」という言葉をたくさんいただいた事です。それは、自分達が自覚している以上の実感を伴うものでした。若い世代の皆さんにも、その部分は浸透してくれていると思います。

Q、シーウェイブスはどういう存在ですか？

釜石開催のワールドカップのうち、台風の影響で二試合目が開催されず、大きな喪失感を抱えていました。そんな状況の中、SWは東日本大震災後の時の様に、すぐにボランティア活動をしてくれました。釜石市内にいた、カナダ代表チームの皆さんも。各チームの行動に感動しましたし、慰められました。

そして、その後、SWの公式戦が鶴住居復興スタジアムで試合があるという事も、前を向く原動力に繋がりました。「私たちにはSWがあるじゃないか。SWが釜石に居てくれて良かった！」という思いが強くなりましたね。

“東日本大震災や台風で被災したまちのチーム”という事実が、時に負担になりませんか？と選手に聞いた事があります。

「その事はマイナスではなくて、僕たちはそれを前に進む力にして進んで行きたいです。そういう僕たちの姿を見て、市民の皆さんに少しでも元気になってもらえたり、一緒に前に進む気持ちを持ってもらえたら。釜石をラグビーで盛り上げて行きたいんです」という答えが返ってきました。こういう言葉を聞いたら、応援せずにはいられないですよ。

Q、シーウェイブスならではの魅力は何ですか？

若い世代の選手は働きながらラグビーをしている人が多く、市内の色々な会社に選手がいることがシーウェイブスの魅力だと思います。もし自分の職場にいたら、応援しますよね！また、地域に根差したチームとして、子供たちにタグラグビーを教えたり、色々な場所でラグビーが身近になるような活動を多くされている所も素晴らしいと思います。

Q、釜石のサポーターの魅力は？

私がラジオで SW のコーナーを担当した時、最初はラグビーの知識が全くなかったので、勉強の為に試合を観る事から始めたんです。その時に、応援団の方々に色々教えて頂いたり、取材にご協力して頂いたりしました。皆さんとても優しく迎え入れてくださいました。

釜石応援団のスタイルは、“マイナスな言葉やヤジは言わない”とか、“反省は試合が終わってから”など前向きで、きっと、選手にもそういう応援の気持ちは届いていると思います。また、選手一人一人を気にかけていて、ケガの具合どうなの？とか、早く戻っておいで！とか、そんなやり取りがいろんなところで見られますね。他にも、新しく加入した選手でも、すぐに名前を呼んで応援したりと、とにかく“選手ファースト”なんです。それから、日本全国各地にファンがいる事も選手にとっては、心強いだらうと思います。

Q、今シーズンの注目ポイントは？

今シーズン一番気になるのは、やっぱりリーグ戦の順位ですね。昨シーズン、念願の4位に入ってくれましたので、さらに一つでも順位を上げて欲しいです。

また、新しいサポーターの方々には、ぜひ練習から見に行ってくださいと思います。練習でやっている動きを試合で見られると、「お！練習していたプレーだ！」って思います。そんな楽しみ方もあるんですよ。今は寒いですが、暖かくなったらぜひ見に行ってください。

Q、釜石まちづくり株式会社ではラグビーグッズを取り扱っていますが、一番の売れ筋はなんですか？

大漁旗デザインの T シャツが一番売れていますね。この T シャツは鶴住居復興スタジアムが完成した時の記念として作成されたものなのですが、とても反響を頂いています。一見すると派手なのですが、着ると誰でも似合ってしまう。ぜひこれを着てスタジアムで応援してほしいですね。



Q、新しいファンに向けてのメッセージをお願いします。

シーウェイブスを好きになる理由やきっかけって何でもいいと思うんです。今のシーウェイブスは若い選手がすごく多くて、働きながらラグビーをしている選手もいっぱいいます。簡

単ではない道を選んで、この釜石の地で暮らしています。

どんな人があるんだろう？と興味を持って欲しい、選手がいつもどんな気持ちでプレーしているのか・・・、選手とファンを繋ぐきっかけになりたい、そんな気持ちで選手インタビューをお届けしています。ぜひ、“かまいし情報ポータルサイト～縁とらんず”選手紹介インタビューも読んでみてください。人間的に素敵な選手がたくさんいますよ。そして、気になる選手を見つけたら、ぜひ、試合観戦に行っ、選手にどんどん声を掛けに行ってください。